

九重山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会幹事会見解

平成7年12月22日
気象庁

大分県九重山の星生山東山腹で10月11日に始まった噴火活動による火山灰の噴出は、一旦止まっていたが、12月18日08時ごろから再開し、以後断続して続いており、九重山の周辺10km前後の範囲まで少量の降灰が確認された。これに伴い、微小地震の活動が高まり、火山性微動、低周波地震が観測された。ただし、今回の噴出物の調査によると、新しいマグマに由来する物質は確認されていない。

地震観測によれば、硫黄山直下浅部を震源とする微小地震の発生が、また、地殻変動観測によれば、星生山周辺で縮みが、継続している。重力、地磁気データにも変化が見られる。火山ガス観測では、地下水の影響が減り、マグマからの脱ガスの寄与が増えている兆候がみられる。

噴火口からは火山灰を含む高温の火山ガスの噴出が続いており、火山活動は活発な状態にある。

引き続き、今後の火山活動に注意して下さい。

九重山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

平成8年2月5日
気象庁

大分県九重山の星生山東山腹では、平成7年10月中旬、12月後半、平成8年1月中旬に火山灰を噴出する活動があった。

平成8年1月13～14日には星生山の北西3～4kmを震源とする地震が多発し、また、1月27日には星生山の南西約2kmの地域でも地震活動が発生した。火口直下では微小な地震が継続しており、また、星生山周辺で顕著な縮みが見られる。

火山ガス観測によれば、その化学組成の変化から火山活動が低下する傾向が見られる。しかし、昨年12月20日以降の火山灰には微量の発泡した火山ガラスが確認されるようになり、地下浅部にマグマが存在することが推定されるようになった。

火口からは噴火直後に比べれば少なくなったものの、高温の火山ガスが噴出しており、九重山の火山活動は依然として続いている。今後とも、その活動を監視していく必要がある。

引き続き、火山活動に注意が必要である。